

次期大学基幹・協働キュレーション環境WG（Mプロジェクト）

「キュレーションWG：メンバーアンケート」

アンケート結果（サマリ）

2022年1月
CS研事務局

アンケート設問

キュレーションの利用後の感想・利活用について

- 1.キュレーションシステムの有益だった点を教えてください。
- 2.キュレーションシステムの使いにくい点、不明点、疑問点を教えてください。
- 3.グループで使った場合、グループのメンバーの反応はいかがでしたか。
- 4.キュレーションシステムはどのようなシーンでの活用が有効だと思いますか。
(今回の使い方以外でもお考えがあればお聞かせください。)

アンケート回答

設問1

キュレーションシステムの有益だった点を教えてください。

- 情報の検索、収集が可能であること
- 情報をまとめて整理できること
- まとめられた情報を教育・研究の現場で改めて活用できること
- グループ単位での議論に向けての共通の情報提供が可能であること etc.
- 素材を「さがす」と「まとめる」が一連のフローで作業できる点。
- PDFファイルとWEBのURLを同じ場所に整理できることは、資料を探すときに探しやすい便利でした。

アンケート回答

設問 2

キュレーションシステムの使いにくい点、不明点、疑問点を教えてください。

- 構造化学習ユニットと連携する場合、キュレーションシステムにまとめられた情報を取り出すにあたり、そのシステムに入るためのID、Passwordが必要になるため、できればJMOOCのIDで活用できるように展開してほしい。
- キュレーションにまとめられた情報の一部を取り出したい場合、まとめられたURLを呼び出し、その中から探し出すのではなく、キーワードなどでどの「まとめ」に組み込まれた情報かをピックアップし、その部分だけを取り出すことができると更なるOERの仕組みとして使いやすくなると思う。
- まとめに行くぞ！という意識が必要とされる。上手く説明できませんが、最初のアイデア出しのところはインターフェイスも含めもっとカジュアルになればと感じました。特に「ひろげる」ステージにおいてはもっと簡単な見た目が必要なのかな。SNSの画面やチャット機能に慣れている事があると思います。
- 論文のPDFをアップしようと思ったときにファイルが大きすぎてアップできなかったのが残念でした。
- 応答が遅く感じる事があった。

アンケート回答

設問3

グループで使っている場合、グループのメンバーの反応はいかがでしたか。

- 私の場合は、コミュニティを活性化することができず、メンバーとのやりとりはほぼできなかったが、これを授業などで利用された場合は、かなり有効に使えるかと思った。ただし、その場合には、コミュニティを牽引する教員の力が非常に大きくなるといえる。
- 今回は結果的にグループメンバーがキュレーションシステムを使用する機会がありませんでした。
- 利用しようと思っていたグループでのプロジェクトは私の所属する広報センター以外に、小学校、中高、女子中高と組織（学校）を横断しており、所在地や建物が違います。ICTの環境やセキュリティも違うのですが、プロジェクトの中心でもある中高のメンバーからセキュリティの問題で閲覧できないという報告を受けました。そのため、想定した通りの活用ができていないというのが現状です。せっかくたくさんアカウントを作成いただいたのですが申し訳ございません。
- 本WGに期間内には複数人での活用を実現できませんでした。

アンケート回答

設問4

**キュレーションシステムはどのようなシーンでの活用が有効だと思いますか。
(今回の使い方以外でもお考えがあればお聞かせください。)**

- 基本、**OER素材**、**研究素材の格納庫**として教員も学生も、そして一般の人たちにおいても、できれば無料で利用できる仕組みになってほしい。そうすれば、活用状況は飛躍的に伸びると思う。最近では他にもキュレーションの仕組み自体はかなり出てきているようなので、それも視野に入れておきたい。ワークショップでお話いただいた鹿児島県の木田さんなど、鹿児島の教育機関では、新たなキュレーションの仕組みをどのように無料、または安価で子供たちに利用してもらえるようにするかの検討が始まっているようなので、GIGAスクールの動きとともに考えていく必要があると考えている。
- グループウェアとして資料を共有しようと考えましたが、利用者個人のパーソナリティに思った以上に活用が影響を受けます。利用したいと考える方が**個人で資料を整理するには非常に便利**だと思いますが、グループ活用にはもう一つハードルがあることを感じました。
- 全学必須科目のように**複数クラスで同じ授業を実施する**場合があります。現在、LMSには同じ教材をそれぞれのコースに配置していますが、このキュレーションシステム上に配置しておくLMS上でリンクを張るだけで参照できるようになります。さらに、**クラスをまたぐ学生間コミュニケーションを把握できる**と思いました。今のところ、担当授業で活用する場面はありませんが、できることがわかれば授業設計を拡充できます。



この資料は、CS研の分科会資料です。
CS研・IS研会員の組織・富士通グループ外への
配布はご遠慮ください。

私立大学キャンパスシステム研究会 事務局

〒105-7123 東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター
富士通Japan株式会社 戦略企画統括部内

ホームページ : <https://csis.ufinity.jp/csken>
E-mail : contact-csisken@cs.jp.fujitsu.com